

第1章 はじめに

1 計画の背景

【光市立学校の将来の在り方に係る基本構想（平成30年3月策定）】

人口減少や少子高齢化により児童生徒数の減少が進む中、次代を担う子どもたちにとって真に望ましい学校づくりを目指す具体的な市立学校の将来について検討し、子どもたちにとって魅力のある学校、望ましい教育環境の提供に必要な基本的な方向性を示すための指針として、「光市立学校の将来の在り方に係る基本構想（以下「基本構想」という。）」を策定しました。

基本構想では、これまで進めてきた連携・協働を重視した学校づくりから、連携・協働を基盤とした学校づくりに前進させ、地域とともにある学校づくりのさらなる進化と小中連携教育から小中一貫教育へのアプローチの2点を柱として、その一体的な取組を通して教育目標の具現化に迫っていくこと、そのために今後、各種要件が整った段階で施設一体型小中一貫ひかり学園の実現を目指すことを示しています。

【小中一貫教育開始（令和2年4月～）】

令和2年度から、全ての市立小・中学校で現在の学校配置による中学校区の小・中学校をひとまとまりとした小中一貫教育を開始しています。

一方、小中一貫教育を推進する上では、小学校と中学校の学校間を子どもたちや教職員が移動する物理的な距離が課題であり、小中一貫教育における教育効果を更に高めるため、小・中学校の施設が同一敷地内で接続または一つに合体した、施設一体型小中一貫ひかり学園の新設を目指しています。

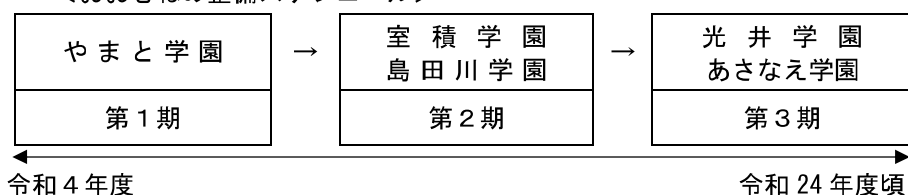
【光市学校施設長寿命化計画（令和3年3月策定）】

光市学校施設長寿命化計画（以下「長寿命化計画」という。）では、予防保全による学校施設の長寿命化の推進をはじめ、地域とともにある学校づくりと小中一貫教育校への発展を掲げています。

【施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に係る方針（令和4年3月策定）】

基本構想や長寿命化計画を踏まえ、施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に係る方向性を具現化するため、新設に係る基本方針や具体的な方針を定めた施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に係る方針を令和4年3月に策定しました。本方針では、小中一貫教育を進化させ、その教育効果を更に高めることが重要であることから、各学校のこれまでの経緯や立地、伝統などを踏まえ5中学校区それぞれを単位として新設すること、また、少子化に対応し協働的な学びの効果を高めるため、一定の学校規模を確保することなどを整理し、児童・生徒数の推移や施設の状況等も考慮しながら、令和4年度からおおむね20年程度で5学園の整備を3期に分け計画的に進めていくこととしています。第1期に位置付けたやまと学園については、令和4年度から施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会（以下「準備委員会」という。）※を立ち上げ、新設に向けた取組に着手しています。

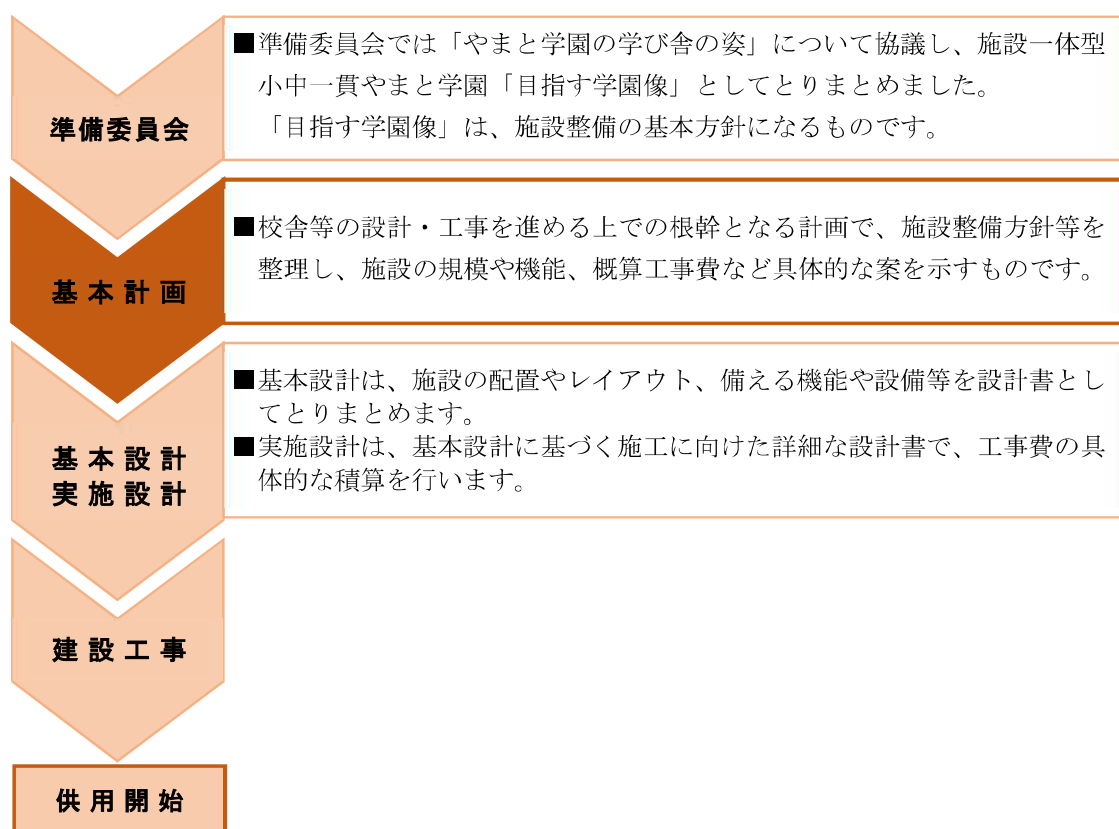
＜おおむねの整備スケジュール＞



2 計画の目的

施設一体型小中一貫やまと学園施設整備基本計画（以下「基本計画」という。）は、令和10年度頃に施設一体型小中一貫やまと学園を現在の大和中学校の場所に新設・供用開始するにあたり、施設整備の基本方針等を提示するとともに、施設の規模や配置等のイメージや整備スケジュールを整理し、今後の基本設計や実施設計に反映するために策定します。

【施設一体型小中一貫やまと学園新設までの流れ】



※施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会

目 的：大和中学校区における施設一体型小中一貫教育の実現に向け、関係者と協議を行う。
 委員構成：やまと学園の児童・生徒の保護者の代表、地域の代表、学校の代表等
 委員人数：69名
 発 足：令和4年11月1日